

ものづくりのエキスパートが続々と登場！ ものづくりベンチャー支援セミナー

今回は、100万分の1グラムの歯車を開発された(株)樹研工業(愛知県豊橋市)代表取締役 松浦 元男氏のご講演を紹介します。

テーマ:「ものづくりの夢を描いていますか?～費用対興味の哲学～」

平成20年3月4日(火)当センター研修室にて開催。

100万分の1グラムの歯車の効果

当社ではプラスチックの小型精密部品を作っています。10年前は大手家電メーカーさんへの売上が半分ぐらい占めていましたが、今は大手さんとの取引はありません。大手さんは中国など海外から調達されるようになりました。しかし、100万分の1グラムの歯車を開発したおかげで、当社の技術力が周知でき、時計屋さんから引き合いがくるようになりました。携帯電話が出てきて時計が売れなくなると、今度は、自動車関連メーカーさんからスピードメーターに使う歯車の引き合いがきました。さらに、携帯電話のカメラレンズやデジカメに使う精密なねじの仕事もきました。同業者がマネできない技術を身につけることで、新しいマーケットが開けていきます。私どもは今、自動車用、家電向けの精密な部品を作っていますが、こういう仕事はあと3～5年で7割くらい消えるだろうと考えています。そこで、最高級のマシンを導入し、誰もついて来られない超精密な切削技術を身につけました。職人技だの手業だの言っていると時代遅れになります。最高級のマシンの上にどんな職人技があるかです。

品質管理

当社の高い品質保証の裏付けとなっているのは、生産、技術、管理全体のシステムであるジュケンシステムです。高性能な機械、高精度な金型を使用し、すべての作業は当社の「業務推進マニュアル」に従い、遂行されます。受注に際しては、不良品がでないような設計を提案します。私どもの提案を聞いていただけない場合は受注しません。当社では、量産の条件で試作品を作ります。試作品ができると精密測定室へもって行き測定します。あらかじめ打ち合わせをした重要寸法については、公差に入っていれば合格とはせず、公差の真ん中に入っていなければ合格にしません。そうすれば材料がばらついても、気温・湿度がばらついても、その他何があっても、全部吸収できるわけです。

財務管理

1973年、オイルショックの年の年末のことです。家へ帰ってラジオのスイッチを入れると、松下幸之助さんが、支払手形は切らず身の丈の経営をするようにおっしゃっていました。それ以来、手形を切るのをやめました。そして、自己資本を増やしていきました。きちんと決算をして、きちんと税金を払って、残りを内部留保にします。配当はしません。



(株)樹研工業 代表取締役
松浦 元男 氏

採用と人材育成

当社では数十年間退職者ゼロです。60歳を超えている社員が10人いますが、給料は下げていませんし、地位もそのまま、昇級もします。親子で来ている社員もいっぱいいます。女性も子供さんができると退職しますが、手が放れたら戻ってきます。戻ったときに昇級だけはしています。リクルートに関してお金は一銭もかかりません。採用は先着順で、履歴書は見たことありません。今の子はきちんと教育されていますので、うまく動機づけしてあげると、あっという間に伸びていきます。

中小企業の生きる道

今ある世界の中で、どういうテーマを選んで、どこに目をつけて、どんなに懸命にやっていくかということが大事です。現在不況だと言われているが、この不況が楽しみなのです。不況というのは、社会が変わる前兆の幕間。幕が開けたときに、どんな世界が開けているか、その世界に自分の企業の体質が合わせられているかがカギ。私たちは、ナノ切削、精密なねじで次の幕開けを待っています。

★講演内容の詳細は、当センターHPにアップしておりますので、ぜひご覧ください。

<http://www.mtc.pref.kyoto.lg.jp/rea/sem/mon/res07>

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
企画連携課 情報・デザイン担当

TEL:075-315-9506 FAX:075-315-9497
E-mail: design@mtc.pref.kyoto.lg.jp